



2019年度 第26号

年報

研究機構
オープンイノベーションセンター

○ オープンイノベーションセンターの運営と組織	
運営と組織	1
組織図・歴代センター長一覧	3
○ オープンイノベーションセンターの活動報告	
年間活動実績	4
○ 産学官連携推進部門の活動報告	
技術相談件数	8
外部資金受入	9
3D-CAD&3Dプリンター無料研修	10
技術相談について	11
共同研究について	13
技術相談パンフレット	15
○ 知的財産部門の活動報告	
発明・特許件数	16
企業との共同研究による発明等の取扱いに関する方針	17
○ 埼玉大学産学官連携協議会研究会の活動報告	
研究会活動報告	19
埼玉大学産学官連携協議会紹介パンフレット	24

オープンイノベーションセンターの 運営と組織

●運営と組織

【名称】

埼玉大学研究機構オープンイノベーションセンター
(Comprehensive Open Innovation Center)

【所在地】

〒338-8570埼玉県さいたま市桜区下大久保255
TEL:048-858-9354 (直通) FAX: 048-858-9419
E-mail: coic@gr.saitama-u.ac.jp
HP: http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/coic/coic_about/

【設立】

平成6年(1994年)6月24日

【目的、業務】

国立大学法人埼玉大学研究機構オープンイノベーションセンター規程(抜粋)

第2条 センターは、企業等の法人、地方公共団体等公的機関、他大学など(以下外部機関等という。)との共同研究及び研究交流を推進するとともに、本学における知的財産の創出、取得及び管理並びに技術移転の促進を図り、地域の企業等における技術革新、生産革新、経営革新、事業革新、情報革新、組織改革等のオープンイノベーションに対して中核機関として貢献することにより、本学の教育研究の進展に寄与するとともに地域社会の産業、文化、福祉及び教育の向上に資することを目的とする。

(部門)

第3条 センターの業務を実施するために、次の部門を置く。

- (1) 産学官連携推進部門
- (2) 知的財産部門

(業務)

第4条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学官連携戦略の企画及び推進
- (2) 外部機関等との連携の推進
- (3) 外部機関等との共同研究及びプロジェクトの推進
- (4) オープンイノベーションの醸成
- (5) 知的財産の管理及び創出・取得の推進
- (6) 技術移転の推進
- (7) ベンチャー起業に関する啓発・教育等による本学発ベンチャー企業への支援
- (8) その他センターの目的を達成するために必要な業務

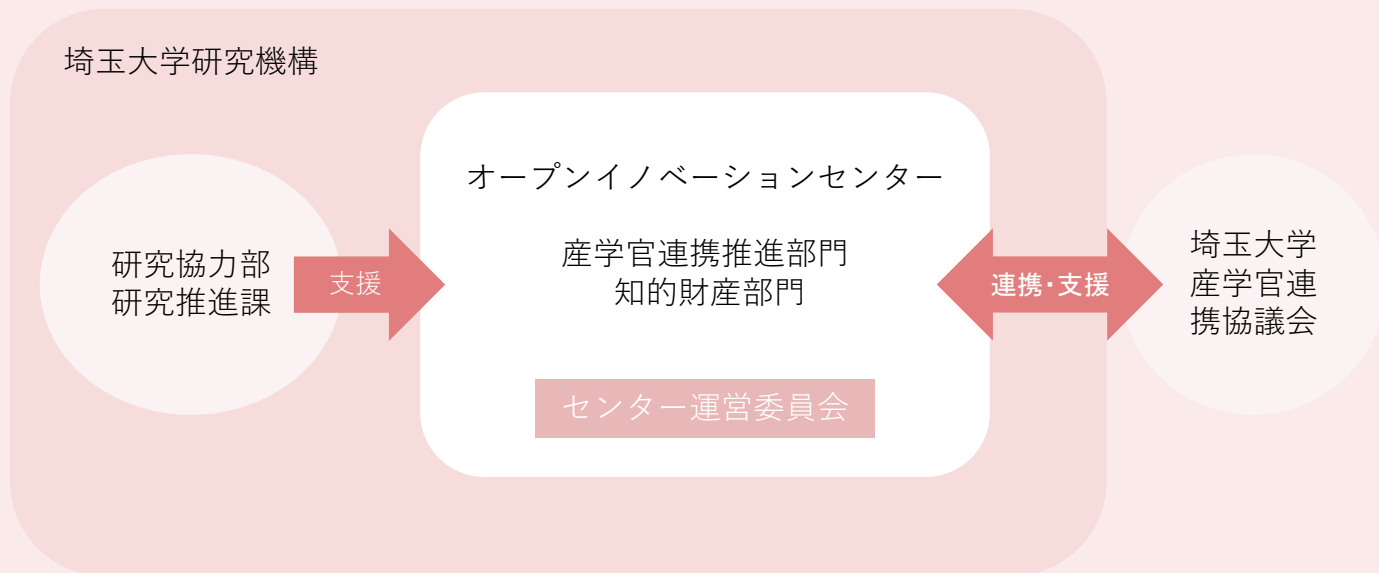
(組織)

第5条 センターに、次の教職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 産学官連携推進部門長
- (3) 知的財産部門長
- (4) 専任教員
- (5) 兼任教員
- (6) コーディネーター
- (7) その他の教職員

スタッフ		主要業務等
センター長／ 知的財産部門長	松岡浩司（教授）	統括、管理、監督、企画、運営、計画推進、 実施、知的財産管理運営など
副センター長／ 産学官連携推進部門長	小林裕一（教授）	統括、管理、企画、運営、計画推進、実施、 地域連携など
客員教員	川鍋宏	技術相談、研究支援、知的財産支援、技術移 転支援など
	中村雅範	
	根岸茂文	
兼任教員	金子秀（教授）	産学官連携推進、センターのオープンイノ ベーション醸成、運営助言など
	宇田川元一（准教授）	
	山本利一（教授）	
	金子裕良（教授）	
	水野毅（教授）	
	田中規夫（教授）	
	森安裕二（教授）	
	小室孝（教授）	
	本間俊司（准教授）	
産学官連携 コーディネーター	大久保俊彦	技術指導、技術相談、共同研究・受託研究の コーディネート業務、研修、イベント出展、 地方自治体との連携、研究会支援、地域企業 連携、広域企業連携、産学連携イベントの企 画・運営、イノベーション土壌の開拓、地域 大学間連携、首都圏北部4大学連合（4u）活 動協力、埼玉大学産学官連携協議会事業支援、 オープンイノベーション醸成、3D CAD～3D プリンター基礎研修業務運営など
	笠谷昌史	
	丹保仁志	
	横田一郎	
	田中雅人	
	清原一人	
知的財産 コーディネーター	有馬百子	特許等知的財産創出、知的財産申請・出願、 知的財産管理、特許紹介、技術移転、知的財 産管理データベース管理など
	杉岡真紀	
センタースタッフ	日下明美	各種イベント・技術相談受付補助、産学関連資 料・刊行物作成業務、予算管理業務、勤務時 間管理、備品管理、オープンイノベーション センター研究棟施設管理、特許管理事務、 ホームページ管理、文書管理、埼玉大学産学 官連携協議会事業支援、先端産業国際ラボラ トリー事務、さいたま市補助金事務 など
	今真紀	
	荒井達男	
	山田涼子	
	石田浩美	
	久保田圭子	
	長舟葉子	

●組織図



●歴代センター長一覧

氏名		期間
初代	一國雅巳 教授	平成 6年 6月24日 ~ 平成 8年 3月31日
2代	河西敏雄 教授	平成 8年 4月 1日 ~ 平成10年 3月31日
3代	山田興治 教授	平成10年 4月 1日 ~ 平成12年 3月31日
4代	坂本和彦 教授	平成12年 4月 1日 ~ 平成14年 6月 9日
5代	睦好宏史 教授	平成14年 6月10日 ~ 平成16年 3月31日
6代	加藤寛 教授	平成16年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日
7代	高田進 教授	平成18年 4月 1日 ~ 平成20年 2月27日
8代	中山重蔵 理事	平成20年 2月28日 ~ 平成20年 3月31日
9代	太田公廣 教授	平成20年 4月 1日 ~ 平成22年 3月31日
10代	川橋正昭 理事・副学長	平成22年 4月 1日 ~ 平成24年 3月31日
11代	大澤清一 教授	平成24年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
12代	綿貫啓一 教授	平成26年 4月 1日 ~ 平成28年 3月31日
13代	松岡 浩司 教授	平成28年 4月 1日 ~ 現在

オープンイノベーションセンターの 活動報告

●年間活動実績

月	日	曜日	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当	実績等	
4	22	月	13:30～ 14:30	108研修室	第1回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
	24	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第1回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	
	25	木	15:00～ 17:00	108研修室	第1回アブラヤシバイオマ ス活用研究会	研主	大久保	参加者：21名	
5	28	火	13:00～ 14:00	108研修室	第2回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
	29	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第2回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	
6	6	木	14:00～ 17:00	大学会館2階 ラーニングコ モンズ	AI活用研究会「第3回研究 会」	研主	笠谷	山下・山田	参加者：28名
	7	金	12:40～ 13:15	浦和コロン	埼玉大学産学官連携協議会 第2回運営委員会	協主	小林	山田・荒井・ 山下	参加者：第1部総会145名・第2 部171名・第3部144名（いづれ かの参加者：182名）
	7	金	13:30～ 18:00	浦和コロン	埼玉大学産学官連携協議会 第20回定期総会・産学官連 携事例発表・交流会	協主	小林	山田・荒井・ 山下	
	12	水	10:00～ 18:00	さいたまスー パーアリーナ	さいしんビジネスフェア 2019	参	大久保	小林・山下	来場者：15,000名 名刺交換： 100名 研究紹介：安積、島村、 内田・長谷川、先端ラボ
	17	月	13:30～ 14:30	108研修室	第2回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
17	月	15:00～ 17:00	埼玉県産業振 興公社	埼玉県産学連携ネットワー ク会議総会	参	小林	大久保		
6	20	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業 務（Fusion360入門コース1 回目）～21日（金）	主	丹保	今	参加者：6名
	26	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第3回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	
	27	木	10:00～ 16:00	JST東京本部 別館	4 u 発 JST新技術説明会	共	大久保	横田・山下	参加者：125名 出展教員：西 田、松下、幡野
	27	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業 務（Fusion360実用コース1 回目）～28日（金）	主	丹保	今	参加者：7名
	28	金	13:00～ 18:00	研究機構棟7 階大会議室	創エネ・畜エネ技術研究会	研主	清原	山下・今	参加者：27名
	7	4	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業 務（Fusion360応用コース1 回目）～5日（金）	主	丹保	今
4		木	13:30～ 18:00	新都心ビジネ ス交流プラザ 4階	埼玉県産業振興公社 産学連 携技術シーズ発表会「画像 処理の活用」	参	清原	今	参加者：50名 ポスターセッ ション：島村、杉浦、安井
8		月	13:00～ 18:00	研究機構棟7 階大会議室	AI時代の画像処理技術研究 会	研主	清原	山下・今	参加者：33名
17		水	15:00～ 17:00	108研修室	アブラヤシバイオマス利活 用研究会 令和元年度第1 回研究会	研主	大久保	山下・山田	参加者：15名

月	日	曜日	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当		実績等
	18	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（SolidWorks入門コース1回目）～19日（金）	主	丹保	今	参加者：8名
	22	月	11:00～ 12:00	108研修室	第4回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	
	22	月	15:00～ 17:00	108研修室	防災ビジネス研究会 2019年度第1回研究会	研主	田中	山田・日下	参加者：16名
	25	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（3D合成アプリ体験コース1回目）～26日（金）	主	丹保	今	参加者：5名
	31	水	9:00～ 10:30	209技術相談室	第4回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	
8	8	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360入門コース2回目）～9日（金）	主	丹保	今	参加者：7名
	22	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360実用コース2回目）～23日（金）	主	丹保	今	参加者：9名
	26	月	9:00～ 10:30	209技術相談室	第5回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	
	27	火	13:30～ 14:30	108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	
	29	木	10:00～ 17:30	東京ビックサイト青海展示棟	イノベーションジャパン 2019～大学見本市～ ～30日（金）	参	清原	今	来場者：14,179名 出展教員：松岡、塩田、稲田
	29	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360応用コース2回目）～30日（金）	主	丹保	今	参加者：4名
9	6	金	13:00～ 16:00	ビジネスプラザさいたま	りそなオープンイノベーションセミナー&個別商談会	主	小林	笠谷・今	参加者：57名 プレゼン教員：柳瀬
	11	水	15:00～ 17:00	108研修室	アブラヤシバイオマス利活用研究会 令和元年度第2回研究会	研主	大久保	日下・山田	参加者：16名
	12	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（SolidWorks入門コース2回目）～13日（金）	主	丹保	今	参加者：5名
	17	火	15:00～ 17:00	108研修室	防災ビジネス研究会 2019年度第2回研究会	研主	田中	山田	参加者：11名
	19	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（3D合成アプリ体験コース2回目）～20日（金）	主	丹保	今	参加者：6名
	19	木	13:30～ 17:00	大学会館2階ラーニングコモンズ	AI活用研究会 第4回研究会	研主	笠谷	日下	参加者：23名
	24	火	13:30～ 14:30	108研修室	第6回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	
	26	木	10:00～ 17:00	埼玉県産業技術総合センター	SAITECオープンラボ	参	小林	山田	研究紹介：杉浦 当センター取組み紹介
	27	金	9:00～ 10:30	209技術相談室	第6回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	

月	日	曜日	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当		実績等
10	17	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360入門コース3回目）～18日（金）	主	丹保	今	参加者：7名
	24	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360実用コース3回目）～25日（金）	主	丹保	今	参加者：6名
	28	月	13:30～ 14:30	108研修室	第7回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	
	29	火	13:30～ 18:00	総合研究棟シアター教室ほか	埼玉大学産学官連携協議会第20回産学交流会テクノカフェ	協主	小林	山田・荒井・日下	参加者：144名
	30	水	9:00～ 10:30	209技術相談室	第7回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	
	31	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360応用コース3回目）～11月1日（金）	主	丹保	今	参加者：3名
11	3	日	10:00～ 17:00	教育学部A棟214教室	防災ビジネス研究会 むつめ祭出店	研主	田中	山田	来場者：324名
	13	水	10:00～ 17:00	大宮ソニックシティ	BIZ SAITAMAさいたま市産業交流展2019商談会～14日（木）	参	小林	CD 今	商談：2件
	14	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（SolidWorks入門コース3回目）～15日（金）	主	丹保	今	参加者：6名
	21	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（3D合成アプリ体験コース3回目）～22日（金）	主	丹保	今	参加者：4名
	25	月	13:30～ 14:30	108研修室	第8回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	
	27	水	15:00～ 17:00	108研修室	アブラヤシバイオマス利活用研究会 令和元年度第3回研究会	研主	大久保	日下・山田	参加者：19名
12	27	水	9:00～ 10:30	209技術相談室	第8回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	
	29	金	10:00～ 11:00	(株)デサン東京支店	防災ビジネス研究会 仙台ライフライン防災情報ネットワーク視察（受）	研主	田中		参加者：9名
	29	金	13:15～ 16:45	研究機構棟7階大会議室	創エネ・畜エネ技術研究会	研主	清原	日下・山田	参加者：45名
	6	金	14:00～ 16:30	総研棟シアター教室展示ホール	中小企業向けSDGsセミナー	共	小林	山田・日下・荒井	参加者：47名
12	13	金	16:00～ 18:00	108研修室	防災ビジネス研究会 2019年度第3回研究会	研主	田中	山田	参加者：12名
	18	水	13:30～ 16:00	ラーニングコモンズA	2020公募説明会@埼玉大学	主	松岡	笠谷・今	参加者：27名
	18	水	9:00～ 10:30	209技術相談室	第9回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、笠谷、有馬、杉岡、荒井、長舟	
	23	月	13:30～ 14:30	108研修室	第9回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員・研推・URA	

月	日	曜日	時間	場所	内容	主催 共催 参加	担当		実績等
1	16	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360入門コース4回目）～17日（金）	主	丹保	今	参加者：14名
	23	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360実用コース4回目）～24日（金）	主	丹保	今	参加者：7名
	27	月	13:30～ 14:30	108研修室	第10回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
	27	月	15:00～ 18:00	ラーニングコ モンズA	「3D-CAD&3Dプリンター 無料研修」活用事例報告会	主	丹保	今	参加者：28名 うち報告者：7 名
	29	水	10:00～ 18:00	さいたまスー パーアリーナ	彩の国ビジネスアリーナ 2020～30日（木）	参	小林	今	来場者：17,603人 名刺交換： 45名 研究紹介：小林(貴) 当 センター取組み紹介
	29	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第10回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	
30	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（Fusion360応用コース4回目）～31日（金）	主	丹保	今	参加者：3名	
2	4	火	13:00～ 16:30	研究機構棟7 階大会議室	AI時代の画像処理技術研究 会	研主	清原	山田・日下	参加者：49名
	13	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（SolidWorks入門コース4回目）～14日（金）	主	丹保	今	参加者：2名
	18	火	15:00～ 18:30	大宮ソニック シティ	埼玉県産業振興公社主催 「公社会員感謝の集い」	参	大久保	今	参加者：130名 当センター取組みおよび研究 シーズ紹介
	19	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第11回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	
	20	木	13:00～ 17:00	108研修室	ものづくり人材育成支援業務（3D合成アプリ体験コース4回目）～21日（金）	主	丹保	今	参加者：6名
	25	火	13:30～ 14:30	108研修室	第11回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
3	1	日	10:00～ 17:30	全学講義棟2 号館	2019年度学内合同企業説明 会～5日（木）まで	協参	小林	山田	参加会員企業：54社、学生519 名参加
	4	水	11:30～ 13:30	浦和	埼玉大学産学官連携協議会 運営委員会	協主	小林	山田	
	23	月	13:30～ 14:30	108研修室	第12回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全 員・研推・ URA	
	25	水	9:00～ 10:30	209技術相談 室	第12回 知的財産評価委員会	主	松岡	綿貫、小林、 笠谷、有馬、 杉岡、荒井、 長舟	

産学官連携推進部門の 活動報告

●技術相談件数（分野別）

年度	生物	物理	化学	機能材料	数学	電気電子	情報通信	機械	環境	建設	経済	教育	その他	合計
令和元年度 (2019年度)	7	0	14	43	0	26	15	49	4	2	4	3	7	174
平成30年度 (2018年度)	7	0	12	27	0	18	16	34	9	0	4	6	20	153
平成29年度 (2017年度)	7	2	15	39	0	19	31	32	2	2	3	5	7	164

単位:件

●技術相談件数（月別）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度 (2019年度)	53	13	12	13	12	8	16	11	8	8	13	7	174
平成30年度 (2018年度)	46	12	15	9	3	8	19	12	12	7	5	5	153
平成29年度 (2017年度)	40	7	15	16	8	19	21	11	11	7	6	3	164

単位:件

●外部資金受入（大学総計）

年度	民間等との共同研究		受託研究		奨学寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和元年度 (2019年度)	160	228,515	47	347,288	162	472,478	369	1,048,281
平成30年度 (2018年度)	160	229,649	49	297,279	176	254,754	385	781,682
平成29年度 (2017年度)	151	229,547	36	150,309	184	315,246	371	695,102

単位:件,千円

●企業・経済団体・官公庁・公的機関訪問件数（年間）

訪問先	件数※
県内企業	25
県外企業	6
経済団体	9
官公庁	16
公的機関	24
他大学	3
その他※	62

※ 件数は、訪問した延べ人数ではなく訪問件数でカウント。
 ※ 「その他」は各種イベント参加のための会場訪問が多く、主な訪問先は大宮ソニックシティ、東京ビッグサイト、さいたまスーパーアリーナ等

単位:件

●直接的外部資金受入

研究課題名		所属	研究者
JST A-STEP (令和元年度(2019年度)採択シーズ2件/12件申請、継続4件)			
ワイヤ+アーク放電によるアディティブ・マニファクチャリングを用いた特殊銅合金製品の低コスト高効率製造技術の確立	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	阿部壮志
プラズマの見える化	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	稲田優貴
多孔質樹脂との摩擦現象を利用したSiCの新高能率研磨工具の開発	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	池野順一
院内感染の検出率を高めるクロストリジウム・ディフィシル感染症迅速診断ツール	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	松下隆彦
完全無制御形交流磁気浮上遠心血液ポンプの開発	令和元年度採択	大学院理工学研究科	水野毅
電極が不要で簡便な欠陥準位の定量分光分析装置	令和元年度採択	大学院理工学研究科	鎌田憲彦
経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)			
低塗工量で高速塗工可能なハイブリッド型高性能エマルジョン粘着剤の開発	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	本間俊司
NEDO IoT社会実現のための超微量センシング技術開発/研究開発項目①超微量センシング技術開発			
1分で感染リスクを検知可能なウイルスゲートキーパーの研究開発	令和元年度採択	大学院理工学研究科	幡野健
埼玉県 先端産業創造プロジェクト			
機械学習を用いたがん細胞の可視化による細胞診支援システムの開発	平成30年度より継続	大学院理工学研究科	綿貫啓一

●間接的外部資金受入

研究課題名		所属	研究者
経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)			
これからのEV社会に向けたパワー半導体向け革新的研磨装置の開発	令和元年度採択	大学院理工学研究科	池野順一
東京都中小企業振興公社			
不燃木材の強靱化、白華・結露レス研究開発におけるマイクロ波プロセスによる木材高度強化、耐湿性改良の検討	令和元年度採択	大学院理工学研究科	廣瀬卓司

●3D-CAD & 3Dプリンター無料研修

本年度で6年目となる「3D-CAD & 3Dプリンター無料研修」を、さいたま市と連携し「ものづくり支援事業」として実施しました。本研修では3D-CADとして、無償体験が可能なFusion360とミッドレンジのSolidworksを使用し、昨年同様Fusion360の入門、実用及び応用の3コースを、Solidworksは入門コースを各4回設けました。また新たに3D画像合成コースを4回設け、画像合成ソフトによる3Dデータ作成の研修を行いました。

近年になってラピッドプロダクトのツールとして3Dプリンターだけでなく安価なNC加工機が登場しています。これらを導入し活用するには、3D-CADの操作だけでなく、3Dデータを3Dプリンター用に変換する手法やCAMによるNCデータ作成を習得する必要があります。このような理由から、本研修では、Fusion360入門、実用及び応用コースで3D-CAD操作の基礎及び実用からCADデータの取扱いやデータ変換方法、CAE機能としてFEM及びトポロジー最適化を取り上げるとともにCAM機能によるNC加工機用データ作成も行いました。

5コースの研修を計20回開催し、実人数で64名、延べで126名の方々に受講いただきました。受講者の業種は、機械だけでなく電気・電子、化学、建築・土木、情報・CAD、医療及びデザイン関係と広い範囲におよびました。

新たに設けた3D合成アプリ体験コースでは、画像合成ソフトによる3Dデータ作成の研修を行いました。入門コースと実用コースでは、3D-CADによる基本的な3Dモデル作成から電子筐体の設計の研修を行いました。応用コースでは、CAE機能としてFEM及びトポロジー最適化を取り上げるとともに、CAM機能によるNC加工機用データ作成も行いました。各コースでは、CAD操作だけでなく、異なるCAD間で互換性のあるデータへの変換方法、3Dプリンターで使用するデータ作成法も取り上げました。

本研修を受講された方には、個別対応として、3Dプリンター導入に関する相談や有限要素法（FEM）解析の相談等も行いました。各コースの研修は、講師の方々が受講者のレベルや進捗に応じた柔軟な対応をするとともに、質問にも的確に回答することで、高い満足度を頂きました。

2020年1月27日（月）に7名の受講者による、3D研修活用事例報告会を開催し、その後の交流会では、活発な意見交換が行われ盛況をもって終了しました。



研修風景



活用事例報告会

●技術相談について

本学では、企業の抱える技術的課題に対するご相談（技術相談）を随時受け付けています。いつでもお気軽にオープンイノベーションセンターまでご連絡ください。声をかけていただくことで、産学官連携のきっかけとなり地域社会の発展のお役に立てることを願っています。

技術相談のメリット

企業

- ・ 共同研究に比べ手軽に利用できる。
- ・ 短期移管に有益なアドバイスが得られる。

大学

- ・ 実用性のある研究ができる。
- ・ 自分の専門を生かせる。
- ・ 企業のニーズや最近の動向がわかる。

- ・ 「埼玉大学研究シーズ集 2018-19」（※詳しくは18P）等で研究内容をお調べいただくことも可能です。
- ・ 測定・分析は、科学技術分析支援センターで有償で対応可能です。
- ・ 学内で対応可能な教員が不在の場合には首都圏北部4大学連合（4u）等のネットワークを通じて他大学の教員を紹介することも可能です。
- ・ オープンイノベーションセンターでは、企業経験のあるコーディネーター等が対応しています。

①

まずはご相談ください



- ・ 貴社名・部署名
- ・ ご担当者名
- ・ Emailアドレス
- ・ 電話番号
- ・ きっかけ
- ・ 相談内容
- ・ 希望すること

②

次に面談を行い方針を決めます



コーディネーターと面談をお願いします。ふさわしい研究者は誰か、どんなスタイルがよさそうか、公的資金は使えるのかなど、大方の方針をここで決めます。

③

研究者とマッチングします



コーディネーターも同席いたします。ここで具体的に話し合います。その結果合意できた内容で契約締結に進みます。

<埼玉大学産学連携窓口>

オープンイノベーションセンター
産学官連携推進部門

TEL：048-858-3849

E-mail：coic-sangaku@ml.saitama-u.ac.jp



オープンイノベーションセンターでは、企業、経済団体、産業支援機関、金融機関、自治体等と連携して産学官連携活動の活性化を進め、外部研究資金による研究や共同研究を推進することにより、大学の研究成果を広く社会に還元を図る活動を進めています。

その一環として、「埼玉大学 研究シーズ集」を発行しております。

- キーワード検索もついておりますので、研究内容からお調べすることも可能です。
- ホームページからデジタルブックでご覧いただけます。
<http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/coalition/seeds/>
- 冊子をご希望の場合はお気軽にお申しつけください。
- 本誌掲載の研究者に興味関心のある方、大学連携にご興味のある方はお気軽にお問合せください。

●共同研究について

共同研究は、民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。

研究形態

- (1) 埼玉大学における共同研究（共同型）
民間機関等から研究者（以下、共同研究員という）及び研究経費を受け入れ、本学の教職員と共同研究員が、共通の課題について、共同して行う研究です。なお、共同研究員とは、民間機関等において現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま大学に派遣される方を指します。
- (2) 埼玉大学及び民間機関等における共同研究（分担型）
民間等から研究経費を受け入れ、大学及び民間機関等が、共通の課題について分担して行う研究です。

研究経費

- (1) 直接経費
共同研究遂行のために、直接必要となる人件費、謝金、旅費、設備費、消耗品費及び光熱水料等の経費です。
- (2) 研究料
共同研究員を本学に受け入れることにより必要となる経費です。
6月につき1人あたり200,000円（消費税及び地方消費税を除く）です。
- (3) 管理等経費
直接経費の10%に相当する経費を負担していただきます。

設備等

- (1) 帰属
 - ① 負担いただいた共同研究に要する経費等により、大学が新たに取得した設備等は、大学の所有に属します。
 - ② 民間機関等における共同研究に要する経費により、民間機関等が新たに取得した設備等は、民間機関等の所有に属します。
- (2) 設備等の利用
研究の遂行上必要な場合は、大学が民間機関等の所有する設備等を受け入れ、共同で使用することができます。なお、この場合の搬入搬出に係る経費は、原則として民間機関等のご負担となります。

研究期間

研究期間は特に制限はなく、複数年締結することもできます。
共同研究が複数年にまたがる場合は、具体的な年次計画を策定し、十分な打合せを行ってください。

手続の流れ

①研究内容の協議

(1)共同研究をしたい教員が決まっている場合
研究内容等について、本学教員にご相談ください

(2)埼玉大学の教員がわからない場合

オープンイノベーションセンターにご相談ください。研究内容や課題が明確になっていない場合でも、随時相談を受け付けています。相談の際は、必要に応じて秘密保持契約を締結します。

②申込

申し込みいただいた内容を本学にて審議を行い、受け入れを決定します。

③受入の決定

申し込みいただいた内容を本学にて審議を行い、受け入れを決定します。

④契約締結

共同研究契約を学長と民間機関等の代表者等との間で締結します。

⑤研究費・研究料の納付

本学からの請求に基づき、研究費・研究料をお支払いいただきます。

研究成果の取扱

知的財産権については、原則共有とし、本学と共同出願することとなります。この場合、持分は本学と協議の上、決定することとなります。また、その実施等の取扱いについては、ご要望により柔軟に対応させていただきます。

税制上の優遇措置

特別試験研究控除制度：企業が大学等と共同研究及び受託研究を行った場合、企業等が支出した試験研究費の一定割合が法人税額から控除されます。

産学連携の推進により大学の研究成果を社会に還元する

埼玉大学オープンイノベーションセンター

技術動向について
教えてほしい

△△教授に相談したい

経営についての
助言がほしい

大学の特許を
使用したい

開発するための
アドバイスがほしい

〇〇技術開発の
共同研究をしたい

公的資金に
申請したい

大学発の新技术を
導入したい



お気軽にご相談ください！私たちがお手伝いします。

まずはコーディネーターにご連絡ください。（無料）
ふさわしい研究者をご紹介できるよう親身になってご相談に応じます。
開放特許をWEBで公開しています。
技術移転についてもご相談ください。



お気軽に
ご相談
ください。

対応可能学科:

工 学 部 (機械工学・システムデザイン学科、電気電子物理工学科、情報工学科、
応用化学科、環境社会デザイン学科) / 理 学 部 (数学科、物理学科、基礎化学科、分子生物学
科、生体制御学科) / 教 養 学 部 / 経 済 学 部 / 教 育 学 部

オープンイノベーションセンターは

- 産学官連携推進部門 及び
 - 知的財産部門 の2部門からなります。
- 具体的な活動としては、本学研究シーズの紹介、技術相談、共同研究の実施支援、知的財産の紹介・活用、外部機関との連携等を行っております。

技術相談から共同研究等への流れ

研究・技術相談申込



オープンイノベーションセンター

産学官連携推進部門

☎ 048-858-3849 ☎ 048-858-9419

✉ coic-sangaku@ml.saitama-u.ac.jp

↓
教員との技術相談

共同研究

受託研究

奨学寄附金

WEBサイト

http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/coic/coic_about/

知的財産部門の 活動報告

●発明件数の実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
発明件数	40	53	44	34	36

単位:件

●特許取得及び管理状況の実績（実用新案含む）

出 願	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
出願件数	38	58	30	36	25
登録件数	30	41	19	30	21
消滅件数	19	12	16	8	28
保有件数※	214	243	246	268	297

※出願、登録及び消滅件数は国内のみ、保有件数は、外国保有特許も含む。

単位:件

●知的財産権ライセンス等収入実績

実施許諾	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	20	22	14	14	16
金額	1,343	1,966	1,851	1,491	1,504

譲 渡	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	0	1	2	3	18
金額	0	0	1,080	1,404	8,855

※知的財産権とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、その他（育成者権、回路配置利用権、ノウハウ等）とし、MTA（試料提供契約）を除く。

単位:件,千円

国立大学法人埼玉大学における企業との共同研究による 発明等の取扱いに関する方針

平成31年3月22日
研究機構長裁定

本方針は、国立大学法人埼玉大学（以下「本学」という。）と企業との共同研究の成果により得られた発明及び発明から得られる権利（以下「発明等」という。）の取扱いに関し、本学の基本的な考え方を示すものである。

1. 権利の帰属（持分）について

発明等は、本学及び共同研究の相手先企業（以下「パートナー企業」という。）に所属する各発明者の発明の貢献度により、その帰属及び持分を決定する。

2. 発明等の活用に関する協議について

本学は、発明等の活用に関し、次の①から⑤までの考えに基づき、パートナー企業と協議する。

① 発明等の活用に関する意向の尊重

当該発明等は、パートナー企業との共同研究の成果として得られたものであることから、その活用に関しては、パートナー企業の意向を尊重する。

② 第三者へのライセンス活動

大学は、研究成果を知的財産権の形で自ら主体的に管理し、効果的に社会に還元していくことが求められており、その責務を果たすべく、本学は、パートナー企業の意向を尊重しつつ、第三者へのライセンス活動を行う。

③ 発明等に係る出願等費用の負担

国立大学法人である本学は、民間企業と異なり、自ら商品化又は事業化して利益を得ることはないから、当該発明等を活用するパートナー企業に対し、本学の知財貢献に係る対価として、当該発明等に係る出願等費用の負担を求める。

④ 不実施補償及び特許法第35条に定める「相当の利益」の支払

上記③のとおり、本学は自ら商品化又は事業化して利益を得ることができないことから、パートナー企業に対し、当該発明等の実施により得た収益の一部について、本学の貢献度に応じた還元（不実施補償）を求め、本学は、それを原資として特許法第35条に定める「相当の利益」を本学発明者へ補償金として支払う。

⑤ 共同研究に係る経費負担

パートナー企業にあっては、共同研究遂行のための共同研究経費を、本学にあっては、共同研究に関する研究者等の人件費並びに研究設備等の維持、管理及び充実に係る費用を負担する。

3. 共同出願契約等の締結について

本学は、発明が創出された場合は、パートナー企業と協議のうえ、実施の条件等を共同出願契約等で定める。

4. 発明等の独占実施及び非独占実施について

発明等をパートナー企業が独占実施又は非独占実施する場合は、原則として次の①及び②のとおりとする。なお、実施許諾契約については、パートナー企業と協議のうえ、締結する。

① 独占実施

パートナー企業が当該発明等の独占実施を希望した場合は、それを承認する。ただし、一定の期間が経過しても、パートナー企業による当該発明等の実施が見込めない場合は、本学は、第三者に当該発明等の実施許諾ができる。

② 非独占実施

パートナー企業が当該発明等の非独占実施を希望した場合は、本学は、第三者に当該発明等の実施許諾ができる。なお、非独占実施の場合であっても、第三者が当該発明等を実施することが困難な場合は、パートナー企業による独占実施とみなす。

以上

埼玉大学産学官連携協議会研究会の 活動報告

防災ビジネス研究会

代表：藤池 一誠（株式会社デサン・代表取締役社長）

事務局：田中 雅人（産学官連携コーディネーター）、山田 涼子

防災ビジネス研究会（会員企業11社、学内教職員4名）は、産学官の持ちうる防災・減災情報を県内に広く周知していくためのビジネススキーム確立にむけた活動を行っています。

2019年度第1回研究会は7月22日（月）に埼玉大学にて開催しました。常設デジタルサイネージを利用した難誘導システム開発状況について、埼玉りそな銀行様さいたま新都心店での常設実験への準備状況報告や、山形沖地震・静岡地震におけるシステム発動時動画の検証を行いました。システム発動時のカメラ映像からは、サイネージに注意を払っていない状況下でも、緊急地震速報発表時に当該システムの周辺に人員がいる場合、注意喚起に有効であると推察できました。

2019年度第2回研究会は9月17日（火）に埼玉大学にて開催しました。常設デジタルサイネージを利用した避難誘導システム開発状況について、実機を用いて表示コンテンツのデモンストレーションを行い改善点等について協議を行いました。

11月3日（日）には、埼玉大学学園祭「むつめ祭」へ2年ぶりに出店し、サイネージを使った防災クイズや工作コーナーを設け、子どもや保護者を中心に324名と大変多くの来場者がありました。10月の台風19

号により近隣でも浸水被害が相次いだことから、来場者の関心は非常に高く、用意したハザードマップが昼過ぎには配布終了となるなど、防災意識醸成に貢献することが出来ました。また、アンケートにもこれまでになく多数の回答をいただきました。地域や年代等のデータを分析しつつ、今後の活動に活かしていく予定です。

11月29日（金）には、2018年度に実施した常設デジタルサイネージを利用した避難誘導システムの実証実験を契機とし、仙台ライフライン防災情報ネットワークによる視察を受けました。仙台市危機管理室担当者、東北大学研究者ほか5名が訪問され株式会社デサン東京支店において、地域防災力の向上を目指し、相互に取り組みや課題の共有を行いました。

2019年度第3回研究会は12月12日（木）に埼玉大学にて開催しました。むつめ祭アンケートの総括、仙台市視察報告、埼玉りそな銀行新都心店における常設デジタルサイネージを利用した避難誘導システム運用状況等について報告を行いました。

今後は、個々のコンテンツの早期事業化及び知財化を進め、産学官連携による研究会ならではの枠組みを持ったビジネススキーム構築具体化に取り組んでいく予定です。



第1回研究会



むつめ祭出店

アブラヤシバイオマス利活用研究会

代表：高木 優（グリーンバイオ研究センター長・教授）

事務局：大久保 俊彦（産学官連携シニアコーディネーター）、日下 明美

アブラヤシバイオマス利活用研究会は、2017年度まで3年間活動してきたアグリビジネス研究会で蓄えたアブラヤシ搾りかす残渣バイオマスの資源化に関する知見を活かし、SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）をはじめとした大型プログラムへのチャレンジ及びそれに向けより高度な知見を高めていくことを目的に、2018年度スタートしました。

2年目となる令和元年度は、11社の正会員のほか4賛助会員及び本学4教員が研究会メンバーとなり、第1回研究会を7月17日（水）に開催いたしました。高木・藤野両先生にアブラヤシプランテーションとパーム油産業の現状や問題点並びにアブラヤシ残渣バイオマス関連の研究開発状況に関しプレゼンいただき、今後の取り組み方法に関し参加者全員で協議しました。

SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）への挑戦にあたっては、相手国を含めた体制構築と研究開発の方向性の明確化がポイントとなるため、現地の大学や政府と長年にわたり交流のあるタイを対象として進めることにしました。アブラヤシバイオマスの利活用方策をタイ国の政策と整合させていくこと、正会員の企業の皆さまとの連携により研究成果の社会実装を実現可能なものとするなど、SATREPS挑戦の中からより有益な研究会となるよう取り組んでいます。

SATREPSの公募が2019年9月10日（応募締切：ODAは10月28日、日本側は11月11日）開始され、本研究会第2回研究会を翌日9月11日に開催し、申請方針を策定しました。

具体的には、①アブラヤシという植物自体へアプローチし、より有用性ある器質への改変による収量増大や地球環境及び労働環境改善、省エネ・低コストにつながる自然由来の技術開発、②タイ政府が進めるパーム油由来のバイオディーゼル燃料政策と整合を持たせたパーム油産業のゼロエミッションに向けた社会実装方技術開発、などです。

2019年10月、藤野教授がタイに出張され、チュラロンコン大学をはじめとしたパートナー研究者との調整やタイから我が国へのODA申請手順を確認しました。その結果、タイ側機関の手続き締切が9月中であることが判明し、今年度の申請は時間切れとなってしまいました。

2019年11月27日（水）に第3回研究会を行い、メンバーとの経緯共有化及び参加企業メンバーの研究開発進捗状況を確認し、2020年度の申請を確実にすべく、研究開発やパートナー研究者との調整などに鋭意取り組んでいます。



第1回研究会（プレゼンする高木本研究会代表）



第3回研究会会場風景（挨拶する高木本研究会代表）

A I時代の画像処理技術研究会

代表：島村 徹也（大学院理工学研究科教授）

事務局：清原 一人（産学官連携コーディネーター）、日下 明美

本研究会は機械学習、ディープラーニングなどの高度情報処理が可能となってきた第3次人工知能ブームを背景に、情報・画像処理分野での保有技術を深化させ、社会および産業界のニーズに貢献することを目的として2018年に設立されました。

2019年度は第一回目の研究会を7月8日（月）に研究機構棟7F大会議室において開催しました。埼玉大学から3件の事例報告、会員企業からはものづくりにおけるAIの活用について講演をいただきました。参加者は27名を数え、活発な質疑応答を交わしました。講演会終了後の懇親会は参加者多数で急遽会場を変更する盛況となり、親睦を深めるとともに有意義な情報交換の場となりました。

2020年2月4日（火）に《働き方改革：事例に学ぶ》と副題を掲げて、効率化、省力化の事例を集めて下期講演会を開催しました。企業から、画像解析・IoT・AIを活用したシステムの導入事例を5件と、大学のAI研究の最新モデル3件の計8件の講演をお願いしました。企業の事例発表はパレット荷下ろし作業、画像解析による省力化など、

最新のAI活用の事例報告が相次ぎ、大いに参考になったと思われます。大学側の画像ないし音声に関するAI最新技術は今後の情報技術を占うものとなりました。講演会の参加人数は49名を数え、過去最多となりました。講演会終了後に設けた名刺交換を兼ねた交流会も過去最多の参加となり、予定時間を大幅に超えて活発な情報交換が行われました。

「AI時代の画像処理技術研究会」は今後も同様に各種の講演を通して技術の深化を図っていく予定にしています。これまで参加されていない方もお誘いあわせのうえ、ご参加ください。



第1回研究会



第2回研究会 《働き方改革：事例に学ぶ》

創エネ・蓄エネ技術研究会

代表：白井 肇（大学院理工学研究科教授）

事務局：清原 一人（産学官連携コーディネーター）、日下 明美

地球規模での気候変動対策として再生可能エネルギーの活用が加速しています。本研究会は創エネ、蓄エネ分野での保有技術を深化させ、社会および産業界のニーズ解決に貢献することを目的に2018年度に設立されました。

2019年は第1回研究会として、6月28日（金）に研究機構棟7F大会議室において講演会を開催しました。埼玉県産業技術総合センター、東京大学、東北大学、弊学研究者に加え、会員企業からも講師をお招きし、6件の講演をいただきました。ペロブスカイト太陽電池と新規蓄電池の最新動向に加え、2019年度の目玉として太陽電池と蓄電池を使用した植物工場システムの実証実験の進捗について報告を頂きました。有用な情報が得られ、活発な質疑応答を交わしました。参加者は27名を数え、再生可能エネルギーに対する関心の高さがうかがえました。講演会後の懇親会でも貴重な情報を得ることができました。

11月29日（金）には第2回研究会として《再生可能エネルギーの活用とエネルギーマネジメント》と副題を設けて、埼玉県先端産業プロジェクトの取り組みや、企業に

おける再生可能エネルギーの活用について8件の講演を実施しました。スマートハウスや、AI（人工知能）を用いた最新のシステムによるエネルギーマネジメントについての一端を把握することができました。参加は45名で、毎回増える参加者が関心の高さを物語っています。名刺交換を兼ねた講演会終了後の交流会では埼玉大学創立70周年記念のオリジナルビールが振る舞われ、活発な意見交換が行われました。

一方、講演会とは別に、研究機構棟ベランダに太陽光発電パネルを設置し、本研究会メンバーの東北大白方教授の発明によるMn（マンガン）系Liイオン蓄電池とLED照明を組み合わせた植物工場ミニシステムを構築し、同蓄電池の安全性についての実験を継続しています。この実験によりMn系蓄電池の安全性が高いことを実証しています。

「創エネ・蓄エネ技術研究会」は2020年度も様々な取り組みを継続していく予定です。これまで参加されなかった方もお誘いあわせのうえ、ご参加ください。



第1回研究会



第2回研究会

《再生可能エネルギーの活用とエネルギーマネジメント》

A | 活用研究会

代表：大久保 潤（大学院理工学研究科教授）

事務局：笠谷 昌史（産学官連携シニアコーディネーター）、日下 明美

本研究会は、所属する会員が将来的にわたり人工知能（AI）を活用した企業変革の最前線を走っていくために、AI・機械学習についての基本的な事項を幅広く知り、活用のための知見を深めることを目的として設立されました。

6月6日（木）に本年度最初の研究会（通算で第3回目）を実施しました。研究会は講演とケーススタディの2部構成でした。まず実際に深層学習を用いてシステム構築をしている企業の方をお招きし、具体的な案件に基づき、実際のシステム構築の際の注意点にまで触れた有意義なお話をいただきました。ケーススタディでは、参加企業2社様から日常業務等での課題およびデータなどについての題材提供をいただきました。その後、グループにわかれた議論および全体討論を通して、AIを活用しやすいところ、逆に活用しづらいところの知見を得て、AI活用に関する理解を深めました。

2019年9月19日（木）に本年度2回目の研究会（通算で第4回目）を実施しました。なお、2020年3月3日（火）に3回目（通算で第5回目）の研究会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスへの感染対策のためにやむなく延期といたしました。

9月に実施された研究会では、実際に機械学習系のシステムを構築してサービス提供をしている企業の方をお招きし、現場での実践的な話題や注意点など、有意義なお話をいただきました。また、AI活用に関するケーススタディについてもおこない、参加企業2社様からご提供いただいた課題について、参加者全員でのグループディスカッションおよび全体討論をすることにより、今後活かせる知見を得ました。

最終年度となる次年度は、これまでに引き続き機械学習の活用に関する話題提供をするとともに、グループに分かれて実習形式でプログラムを作成し、AI活用に結びつく知見と技術を得るための構成で進める計画です。その準備として、これまでのケーススタディに代わり、3月の研究会ではプログラミング言語Pythonを利用した機械学習に関する演習を予定していました。今後、この演習を実施した上で実習形式へと進む予定です。



第3回研究会 講演会



第3回研究会 ケーススタディ

埼玉大学産学官連携協議会

埼玉大学産学官連携協議会は、平成12年に埼玉県内の経済団体*と埼玉大学が設立発起人となり、協議会会員企業等と埼玉大学の研究とを有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的に設立された任意団体です。

本協議会では、協議会会員企業等の経営者および技術者と埼玉大学の研究者との交流の場を提供する産学交流事業、埼玉大学からの各種情報発信、また共同研究等への発展が期待される課題解決に向けた研究会活動などを行っています。

*埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、埼玉県商工会議所連合会、埼玉県工業連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県中小企業振興公社(現埼玉県産業振興公社) 法人格名称

会員のメリット

① 本協議会の研究会に参加できます！

- ①防災ビジネス研究会 ②アプラヤシバイオマス利活用研究会
- ③AI時代の画像処理技術研究会 ④創エネ・蓄エネ技術研究会
- ⑤AI活用研究会



② 産学交流会(テクノカフェ等)に参加できます！

- ・大学・企業等の最先端の研究成果や技術紹介と、大学と企業等のマッチングをおこなうオープンイノベーションの場に参加できます。



③ 埼玉大学の学生採用のチャンスがあります！

- ・会員企業が埼玉大学の学生・留学生に対して魅力発信する機会(企業説明会)に参加できます。<年1回>



④ 埼玉大学科学分析支援センターが活用できます！

- ・大型分析機器を多数保有する科学分析支援センターでの依頼分析を協議会会員料金(規定の1/2)でご利用いただけます。



⑤ 企業活動に役立つ最新情報をお届けします！

- ・ニュースレター(年2回発行)とインフォメーションメール配信により研究シーズや会員企業紹介・最新のイベント情報などをお届けします。



入会のご案内

会員

1. 正会員は、本会の事業に賛同する団体または個人とします。(企業規模、業種にかかわらず入会することができます)
2. 公的な団体及び地方自治体等は、賛助会員として入会することができます。

お申し込み方法

埼玉大学産学官連携協議会の趣旨に賛同され、入会をご希望の方は、入会申込書に必要事項をご記入の上、事務局あてにFAXまたは郵送してください。担当よりあらためて連絡いたします。

年会費

1. 正会員：1口3万円を1口以上 / 2. 賛助会員：無料

■お問合せ 埼玉大学産学官連携協議会事務局
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 (オープンイノベーションセンター内)
電話：(048)714-2001 Fax：(048)858-9419 E-mail：coic-jimu@ml.saitama-u.ac.jp
URL：http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/kyougi/kyougi_about/